

番号	質問・意見概要	教育委員会からの回答・考え方
1	岸和田市へ来て50年になるが、ずっと久米田青少年会館を利用してきた。徒歩で通える場所にあった施設が廃止になるのは非常に残念に思う。山直市民センターではどんなクラブや講座があるのかもわからない。 また、現在の公民館は高齢者の利用が多数を占めており、且つ稼働率は低いと説明があったが、高齢者にとってはなかなか自宅を出る機会が少ない中で、公民館活動が数少ない活動の機会になっている。全体の稼働率の低さだけみるのではなく、そういった側面を考えてもらいたい。 久米田青少年会館の土地に安全な施設を作り直してもらえないのか。	一番近い館がなくなることでご不便をお掛けすることとなるが、本計画においては、利用者に安全に利用いただくことが第一の使命であるとの考えから、「耐震性に欠け利用の安全性が確保できない施設」「利用者の生活圏が重なり、再編によって移動に大きな困難を来たさない施設」を対象としており、耐震性のない久米田青少年会館もこれに当てはまる施設である。 今回の再編によって自宅から最寄りの公民館までの距離が遠くなってしまう方々や、移動が難しいなどの理由から、現在においても公民館利用が少ない85歳以上の高齢者の皆様についても、これまで以上に公民館活動にご参加いただけるよう、今後オンライン講座の充実やリモート開催等に取り組んでいく。
2	久米田青少年会館は最終的にどうなるのか。	久米田青少年会館は昭和39年の建築で、市内の公民館等の中で最も古い施設である。 また、「新耐震基準」（1981年に改正された建築基準法において、震度 6 強の地震でも倒壊、崩壊せず人命が守れる基準）適用前に建築された施設であることと、補強コンクリートブロック造と鉄骨造の混構造であるため、現状のままでは利用者の命を守る安全性が担保できない。 以上を踏まえると、施設の利用を継続することはできず、廃止はやむを得ないと考えている。
3	利用率が低いというが、利用率が高ければ潰さないということか。それならば、なぜ利用率を上げる努力をしないのか。進める順序が違うと思う。	稼働率が低いため、館を減らすということではない。稼働率を記載している理由は、再編を行ったとしても、統合先となる館が利用者の需要を受け入れるキャパシティがあることをお示しするためである。
4	計画を進めていく背景として「岸和田市の人口減少が進んでいること」と説明があったが、近隣の他市町村と比較して減少率はどうか。府内でも岸和田市と同程度の大きさ、あるいは交通ネットワークの状況が似通っている場所と比較できるようなデータを示すべき。 例えば和泉市は栄えてきていると思うが、それに対し令和27年度までに岸和田市の人口は14万人近くまで減少が見込まれていることについて、どういう対策をしているのか。	和泉市の人口は平成26年度の187,279人以降減少しているが、平成17年度と平成27年度を比較した場合の減少率は本市よりも緩やかである。 その理由として、泉北高速鉄道の存在が大きいと思われる。本市においても、同鉄道の延伸要望や、湾岸部の開発にも取り組んでいるが、それでも人口は減少傾向にあり、人口減少に対する施策に取り組む一方で、現状と今後の見込みを踏まえた施設運営を検討していく必要がある。
5	統合によって稼働率は上がると見込んでいるのか。	本計画は、稼働率が低いことを理由に館数を減らすということではなく、再編を行ったとしても、統合先となる館が利用者の需要を受け入れるキャパシティがあることをお示しするためである。
6	令和 7 年度末までに廃止というのはどういった経緯で決まったのか。今後それをどのように説明していくのか。	本計画は、市長や教育長を含む特別職が参加する、政策決定会議を経て決定したものである。今後、市民説明会を終了後、計画内でお示ししている 4 つの対象施設について、関係する各地域に出向き、より具体的な説明を行っていく考えである。

番号	質問・意見概要	教育委員会からの回答・考え方
7	令和 7 年度末の廃止というのは、あまりにも急な話だなと感じる。例えば、現在のクラブ活動における役回りや任期と合わないなどの不都合が生じる。 現在のクラブやサークル活動が、山直地区公民館できちんと継続できるのか不確定であることに不安を感じる。活動時間がほかの団体と被ってしまうことはないのか。80歳以上の方は来れない人も多い。公民館活動に来てもらうためにリモートなどを提案されているが、すべての活動でそのようなことができるのか。	現在活動いただいているクラブやサークルを継続いただけるよう、今後、利用者調整を丁寧に行っていく所存であり、期間は 2 年程度を要すると見込んでいる。
8	65歳以上の高齢者は増えていく見込みであり、かつ公民館利用者の多くが高齢者であるならば、高齢者にどのように公民館を利用していただけるのかをもっと考えていく必要があるはず。 久米田青少年会館が耐震性に欠ける施設であること、立て直しが難しいことは理解するが、現在の利用者は高齢者が多い中で統合先が山直市民センターの 1 か所のみというのはどうかと思う。久米田青少年会館から山直市民センターへ移って、高齢者が本当にそこまで足を運べると考えているのか。さらに言えば、町会等も公民館を頻繁に利用しているので、今の場所で活動できなくなるというのは大変不都合である。	距離が遠くなれば、高齢者が出かけにくくなるというのはご指摘のとおりであり、ご不便をおかけするが、全ての市民に対して、容易に歩いて通える距離の施設を用意するというのも現実的ではない。 どうしても施設に行くことが難しいという方に対しては、公民館以外の他の施設の活用も含めた活動場所を検討するとともに、オンライン講座の開催などを積極的に行っていく考えである。
9	2. 再編の方針の（2）「市民の学習環境の整備と学習機会の提供」について、現在の取組状況はどうか。	「①オンラインによる学びの充実」については、市立公民館において、コロナ禍で部屋の利用人数に制限がかかった際に、別の部屋で動画配信による講座を実施したことをはじめ、今年度は講座を録画し、後日、Youtubeで配信する取組を計 3 回行う予定。 「②他の公共施設での学習機会の充実」については、既に出前講座を年間を通じて行っている。 「③働く世代へのアプローチ」については、キャリア形成に繋がる講座を企画したり、仕事帰りでも参加いただけるよう、夜間の講座等を開催している。また、SNSでの情報発信については、市立公民館においてインスタグラムによる広報活動も行っている。 「④子どもの学習環境の充実」については、子ども向けの講座を継続的に企画し、学校ではできない学びの機会の提供と体験格差の解消に努めている。 「⑤リカレント教育の充実」については、多様な生き方や働き方を実現するため、学び直しへの関心の高まりに対応したスキルアップに繋がる講座の企画を行っている。 「⑥障がいのある方の学びの充実」については、今年度、市立公民館において、障がいのある方への対象講座を計 2 回実施予定である。また、毎年度、障がい者理解を広めるための講座を実施している。

番号	質問・意見概要	教育委員会からの回答・考え方
10	2. 再編の方針で挙げている取組内容は誰もが考えることだが、実際どこまでできるかが重要と思う。中でもリカレント教育というのは10年前から謳われてきたことで、現時点でこの取組が十分になされていないことがおかしい。	本市は、老朽化が著しい施設を数多く所有している状況である。 本市の財政状況を、経常的な経費に経常的な収入がどの程度充当されているかの比率を示した経常収支比率でみた場合、この比率が70％程度であれば、臨時の財政需要や市民からのニーズなどに対応した柔軟な事業実施が可能と言われているが、本市は96.4％と非常に高く、財政状況は硬直化している。このような現状ではソフト面の事業を充実させるなどのきめ細やかな市民サービスの提供が非常に難しい状況であるため、施設の再編を進めることで生み出した財源を、そういった事業の充実などにあてていく方針である。
11	耐震工事を行っていない施設を、耐震性がないという理由で廃止するというのは、少々ちぐはぐに感じるものの、一定やむを得ないことと理解している。 第1期、第2期と進めていく上で、財源確保の流れはシミュレーションできているのか。	再編によって生まれる財源は、優先的に施設の機能充実及び強化、子どもの学びの機会の充実に充てていく考えであり、このことは市長とも合意している。 具体的に再編によってどれだけの財源が生み出せるかは、土地を売却することになるのかなど、今後、地域の皆様との話し合いや協議内容によって大きく変わる部分があるため、現時点ではシミュレーションはできていない。
12	公民館に来ることが難しいご高齢の方、特に85歳以上の方々を置いていかないようにするための取組として、オンライン講座の充実やリモートによる開催を提案されていたが、高齢者にとってハードルが高いと思う。	高齢者にとってオンライン講座の受講にはハードルがあるが、使い方の研修や受講方法の案内を積極的に行っていくことで、より多くの方に公民館活動に参加いただけるよう努めていく。
13	オンライン講座は本当にその講座に興味がある人しか理解できない。オンラインを押し進めていくとしても、補完的な意味で対面による実施もすべきだと思う。	あくまで基本は対面であり、オンラインによる開催は、それらにプラスするものと考えている。市民の多様な学習環境の整備と学習機会の提供を推進していくために、オンラインによる学びの充実も行い、例えば複数館をオンラインでつなぎ、やり取りをしながら進めるような、交流促進につながるオンラインならではの講座も企画できればよいと考えている。
14	公民館の空き状況と活動時間が合わなくなった場合、町会館を利用するなど、検討する必要がある際は行政が交渉してくれるのか。	利用調整の中で他の施設利用を希望する声が多く上がれば、検討や協議を行っていく。
15	施設を統合した場合、活動場所・時間を決定する際は、統合先の館で元から活動している団体が優先されるのか。仮に、活動時間が重複した場合、夜間へ移動して欲しいと提案されても無理な人もいる。	活動団体（クラブ）は、前年度に登録申請を行い、一年間の部屋の先押さえを行っている。利用調整にあたっては、統合先となる館で、元から活動していた団体が全て優先されるということではない。今後、全てのクラブを対象として利用調整を行い、活動時間・部屋が重複する場合は、それぞれの団体に隔週で利用いただくようお願いしたり、活動内容に対して必要な部屋の広さを再検討いただくよう提案させていただくことも考えられる。
16	選挙会場としても利用されていると思うが、施設廃止後はどうなるのか。	仮に、久米田青少年会館が廃止となった場合は、学校やその他近隣施設を活用するなど、代替施設の確保に向けて選挙管理委員会事務局と協議していく。

番号	質問・意見概要	教育委員会からの回答・考え方
17	他の施設の利用について、小学校・中学校自体も再配置の問題があり、代替施設として活用していくことには困難な点も多くあると思うが、どのようにしていけば実現できるかを考えていくことが行政の仕事だと思う。	他の施設の活用については、計画に「市民の学習環境の整備、機会の提供にあたっては他の公共施設などの利用促進」と方針を記載しているが、行政が勝手に町会館等の民間施設を利用すると決めることはできない。そのため、市民説明会の場で本計画について十分に説明し、地域の皆様のご理解を得ていく必要がある。また、学校の活用については、既に学校施設開放で利用されているケースもあり、今後、協議・調整を進めていく。
18	現在の利用者にとって久米田青少年会館は憩いの場となっている。 そのような施設を取り壊すことだけが決定しており、その後どうしていくかは今後協議していくというのは受け入れ難い。取り壊しをするのであれば、その先の見通しが立っているべきではないか。	現段階で、施設廃止を前提にした跡地利用等の計画を立てることはできず、まずは、市の方針について市民の皆様に十分に説明し、納得を得られて初めて、その先についての協議・議論が進められるものと考えているため、施設を廃止した場合の土地の活用方法等についての具体的な案は持ち合わせていない。土地は、広く市民全体の貴重な財産であることから、地域の皆様のご意見を踏まえつつ、今後の活用方法を判断していく。